

第6次豊丘村総合振興計画

【基本構想（案）】

第1部 序 論

第2部 基本構想

目次

第1部	序論	1
1	総合振興計画とは	2
(1)	計画策定の趣旨	2
(2)	計画の役割	2
(3)	計画の構成・計画期間	3
2	時代潮流	4
3	豊丘村の特徴	6
4	住民の意識等	8
5	これからのむらづくりの課題	11
第2部	基本構想	13
1	むらづくりの基本姿勢	14
2	むらの将来像	14
3	施策の大綱	16
(1)	基本方向	16
(2)	基本目標	17

第1部 序 論

1 総合振興計画とは

10年後のむらの目指す姿を思い描き、
その実現に向けて取り組むための計画です

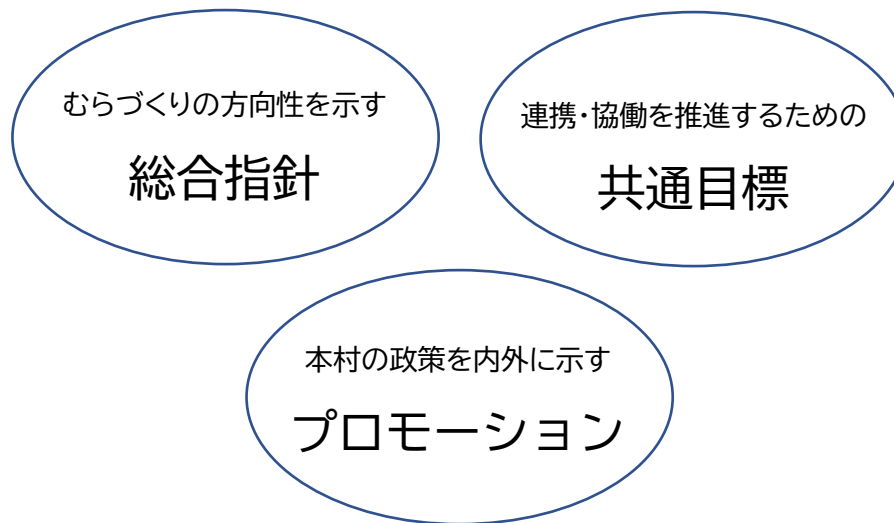
(1) 計画策定の趣旨

人口減少・少子高齢化の進行に加え、情報通信技術のさらなる発達・普及や安全・安心や環境問題等への関心の一層の高まり、価値観の多様化、新型コロナウイルス感染拡大による影響など、むらづくりを取り巻く環境は大きく変化しています。また、本村では、リニア中央新幹線の開業を見据え、「豊丘スタイル」を体現する道の駅「南信州とよおかマルシェ」が2018年4月にオープンしました。

令和5年度を初年度とする「第6次豊丘村総合振興計画」(以下、「本計画」という)は、こうした社会情勢や経済動向、地域の実情を十分に踏まえつつ、10年後のむらの目指すべき姿を思い描き、その実現に向けた戦略的な取組を計画的に推進するために策定するものです。

(2) 計画の役割

本計画は、本村の最上位計画として、むらづくりの方向性を示す「総合指針」となるものです。また、多様な主体との連携・協働によるむらづくりを進めるための「共通目標」であり、さらに、本村のむらづくりの方向性を内外に示す「プロモーション」としての役割も果たします。



(3) 計画の構成・計画期間

本計画は、基本構想、基本計画、実施計画で構成されます。それぞれの役割と計画期間は、次のとおりです。

■基本構想

中長期的な視野をもって総合的かつ戦略的にむらづくりを推進するため、村がめざすべき将来の姿、向かうべき方向(グランドデザイン)を明らかにするものです。

計画期間は、令和5年度から令和14年度までの10年間です。

■基本計画

基本構想に掲げたグランドデザインの実現に向けて、効果的な取組を計画的かつ着実に推進するため、5年間で取り組むべき施策の方向性を示すものです。

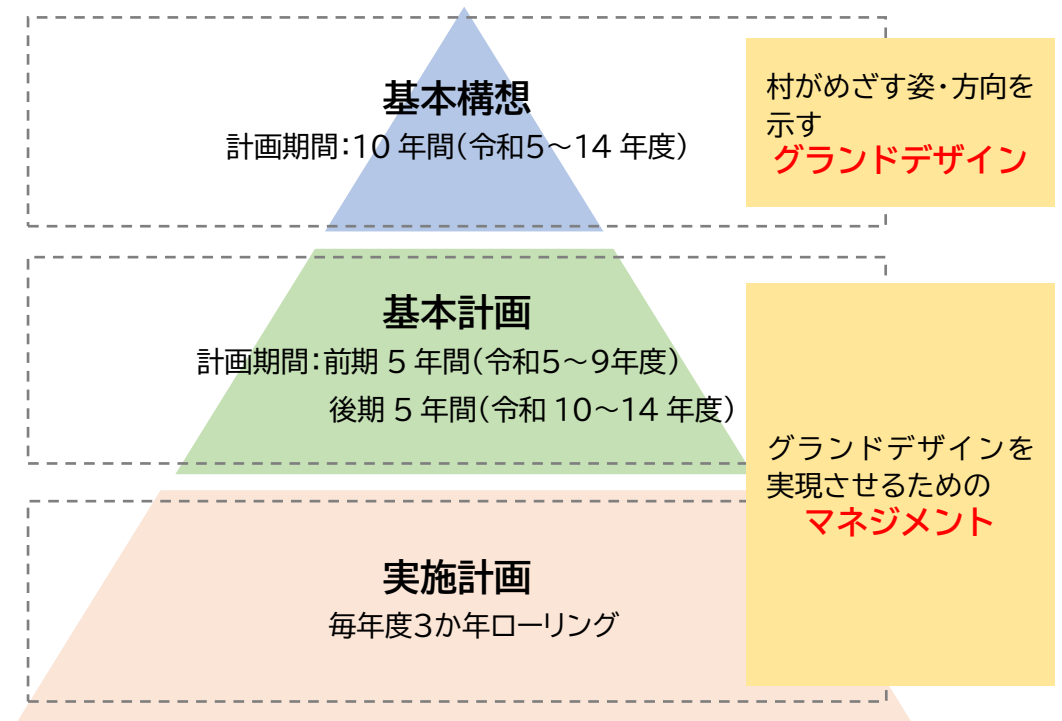
計画期間は、前期基本計画が令和5年度から令和9年度までの5年間、後期基本計画が令和10年度から令和14年度までの5年間です。

■実施計画（別冊）

基本計画に示した施策を推進するための具体的な事業を示すものであり、毎年度の予算編成の指針となるものです。

3年間で1期間とし、毎年度見直しを行うローリング方式により策定します。

【本計画の構成イメージ】



	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
基本構想	R5～R14(10年間)									
基本計画	前期:R5～R9(5年間)					後期:R10～R14(5年間)				
実施計画	3年			3年			毎年度3年ローリング方式			

2 時代潮流

■人口減少・少子高齢化の進行

- 人口減少、少子高齢化が加速すると予想されており、地域社会や経済活動の担い手不足、社会保障費の増大が懸念されます。
- 少子化対策と地方への若者の移住・定住に向け、国を挙げて地方創生に取り組んでいます。
- 人生100年時代において、生涯にわたり活躍できる地域社会が求められています。

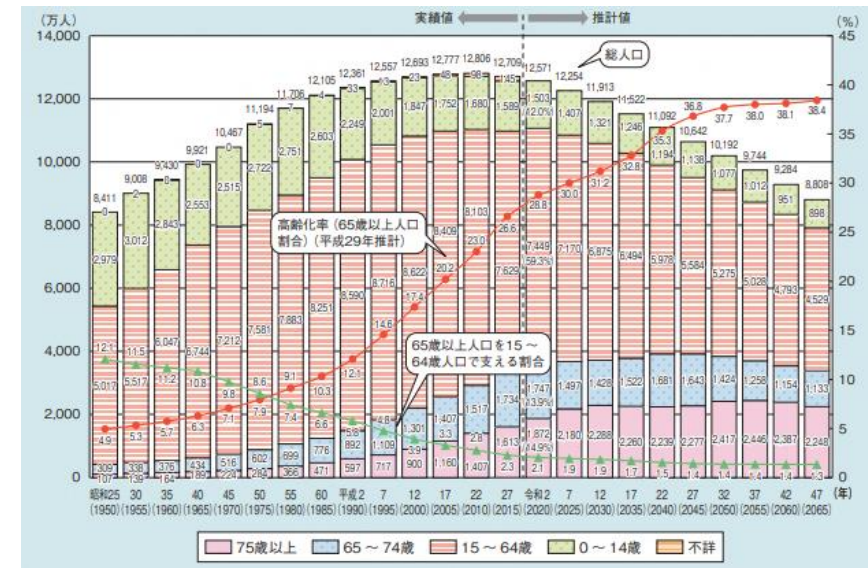
■デジタル化の進展

- 情報通信技術の発達・普及は、消費生活やコミュニケーションの在り方に変化をもたらし、IoTやAI、ビッグデータを活用した付加価値の創造や生産性の向上、市場開拓等が注目されています。
- 経済発展と地域課題の解決の両立を図る「Society5.0」や業務改革につなげる「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」、都市機能の効率化・高度化を目指す「スマートシティ」の実現に向けた取組等が推進されています。

■環境問題への関心の高まり

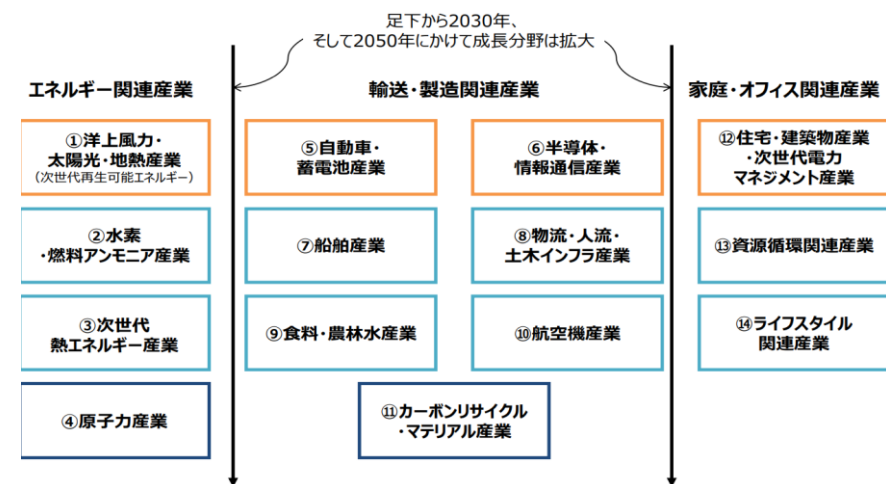
- 地球温暖化や海洋汚染をはじめ、環境問題に対する関心が高まっており、低炭素社会の構築や自然との共生等、環境問題は世界的規模で取り組むべき課題となっています。
- 国は「2050年カーボンニュートラルの実現」に向けた取組を推進するとともに、カーボンニュートラルに伴う産業構造転換と「グリーン成長戦略」を推進しています。

【日本の将来推計人口】



出典：内閣府「令和3年度版高齢社会白書」

【グリーン成長戦略で成長が期待される14分野】



出典：経済産業省「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」

■安全の確保・安心ニーズ

- 自然災害などに対する不安が高まっています。国は、強さとしなやかさを備えた国土・地域・経済社会を構築する「国土強靱化」を目指しています。
- 虐待や暴力、いじめなど、人権や生命を脅かす事件が多発しているほか、SNSを介した犯罪等が社会問題化しています。
- コロナ禍は人々の心身の健康や社会経済活動に大きな影響を与えており、市民の命と暮らしを守るとともに、新たな日常を見据えたまちづくりが求められています。

【平成 26 年以降の主な災害】

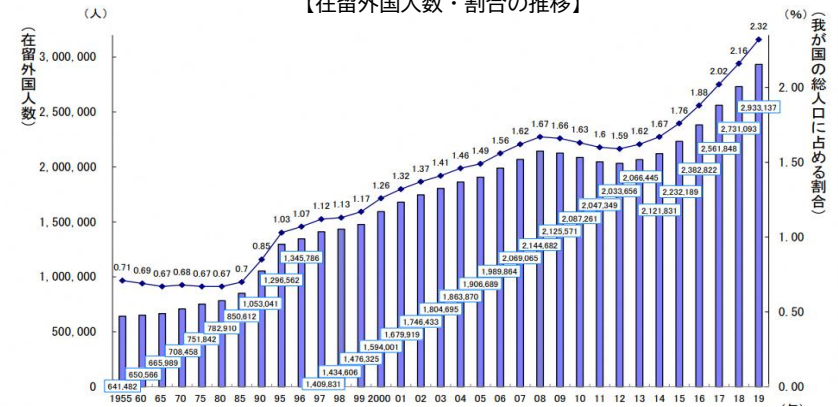


出典：内閣官房「防災・減災国土強靱化のための3か年緊急対策による取組事例集」より

■価値観の多様化・多様性

- 一人ひとりの価値観が多様化し、就労形態や暮らし方、家族の在り方等にも変化が生じており、それらに対応したまちづくりが求められています。
- 在留外国人が増えてきており、国籍・民族による文化の違いを認め合い、地域で共に暮らしていく「多文化共生社会」の形成が求められています。
- 性別・SOGI(性的指向・性自認)、障がい等による違いを尊重し、認め合う社会が求められています。

【在留外国人数・割合の推移】



出典：内閣府「多文化共生事例集作成ワーキンググループ」事務局説明資料より

■持続可能性

- 人口減少・少子高齢化が見込まれる中、今後もまちの活力を維持していくためには、地域の強みと資源を有効活用した行財政運営が不可欠になっています。
- 2015年には、国連サミットにおいて「持続可能な開発目標(SDGs)」が提唱され、この達成へ向けた取組を実行していくことが求められています。

【SDGsの17のゴール】



3 豊丘村の特徴

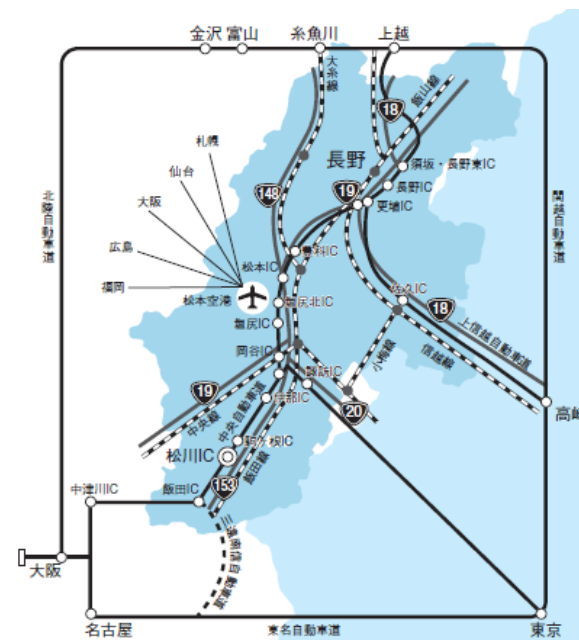
■河岸段丘を形成する河川が天竜川に注ぐ、南信州のむら

- 本村は、長野県下伊那郡の北部、天竜川の東側に位置し、東は鬼面山および大西山等の伊那山脈を境として大鹿村、上村に続き、南は高関山境に喬木村に接しています。また、西は天竜川を隔てて高森町、松川町に相對し、北は間沢川をはさんで松川町生田に接しています。
- 地質は、天竜川の沖積地帯(下段)伊那層上に火山灰を堆積した洪積台地(中段)花崗岩の基盤上を砂質土で覆った山間地帯(上段)から成っており、伊那山脈に源を発する壬生沢川、虻川、漆沢川、芦部川、寺沢川、市の沢川、間沢川の一級河川が、いずれも段丘を横断して溪谷をつくり天竜川に注ぐなど起伏に富んでいます。



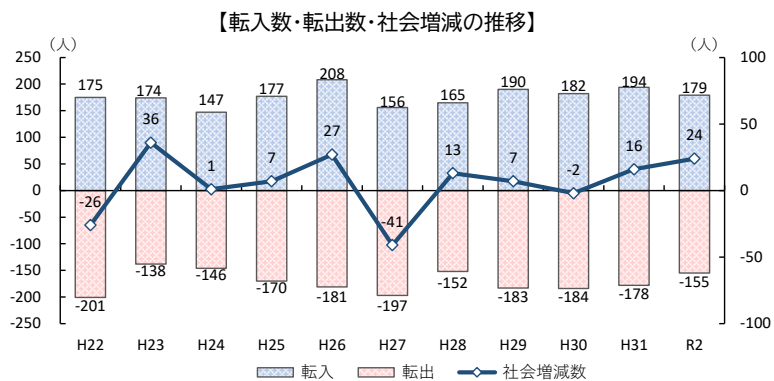
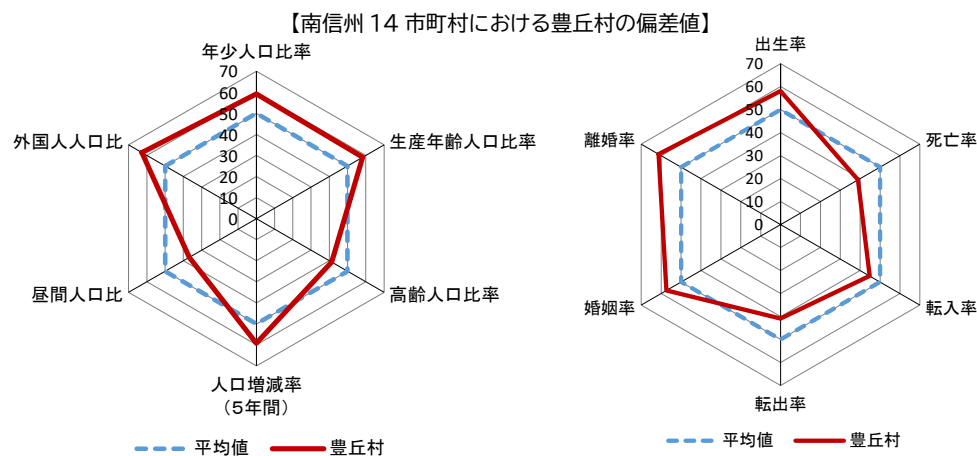
■高速交通網が整備され、広域移動の利便性が高い

- 本村に鉄道駅はありませんが、天竜川をはさんだ西側にJR飯田線が通っており、最寄り駅の市田駅には村の中心部から徒歩約15分で行くことができます。
- 高速道路は、中央自動車道松川IC及び飯田ICまで車でそれぞれ約15分と約25分の距離となっています。
- リニア中央新幹線の開通が予定されており、西側の飯田市に「長野県駅」が設置されるほか、南信州と静岡県浜松市を結ぶ三遠南信自動車道の整備も進められており、本村へのアクセスの利便性が高まり、交流、交易の活性化が期待されます。



■若い人の割合が高く、人口減少が抑えられている

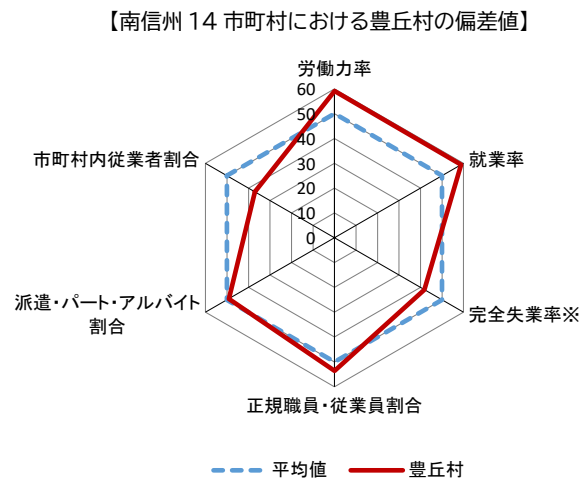
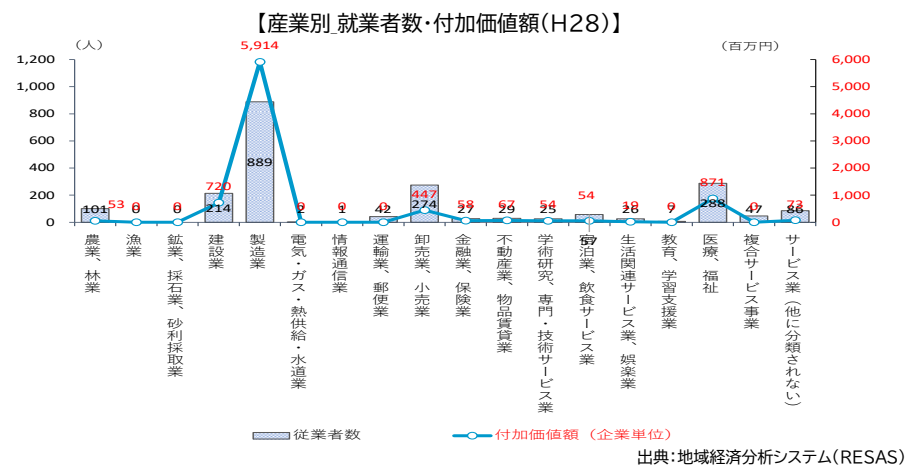
- 南信州の中では年少人口、生産年齢人口の比率が高く、高齢人口比率が低くなっており、比較的若い世代の割合が多い地域となっています。
- 過去5年間の人口増加率は 3 番目に高く、減少幅が抑えられており、近年は転入超過の年が多くなっています。



出典:総務省「住民基本台帳移動報告」

■製造業が盛ん、村外で働く人が多い

- 就業者数、付加価値額はともに製造業が高く、本村の中心的な産業となっています。一方、産業別売上高の構成比を全国や県と比べると、宿泊業、飲食サービス業で低い特徴がみられます。
- 労働力率、就業率が南信州の中で最も高くなっています。また、村内で働く人の割合が郡内で最も低くなっています。

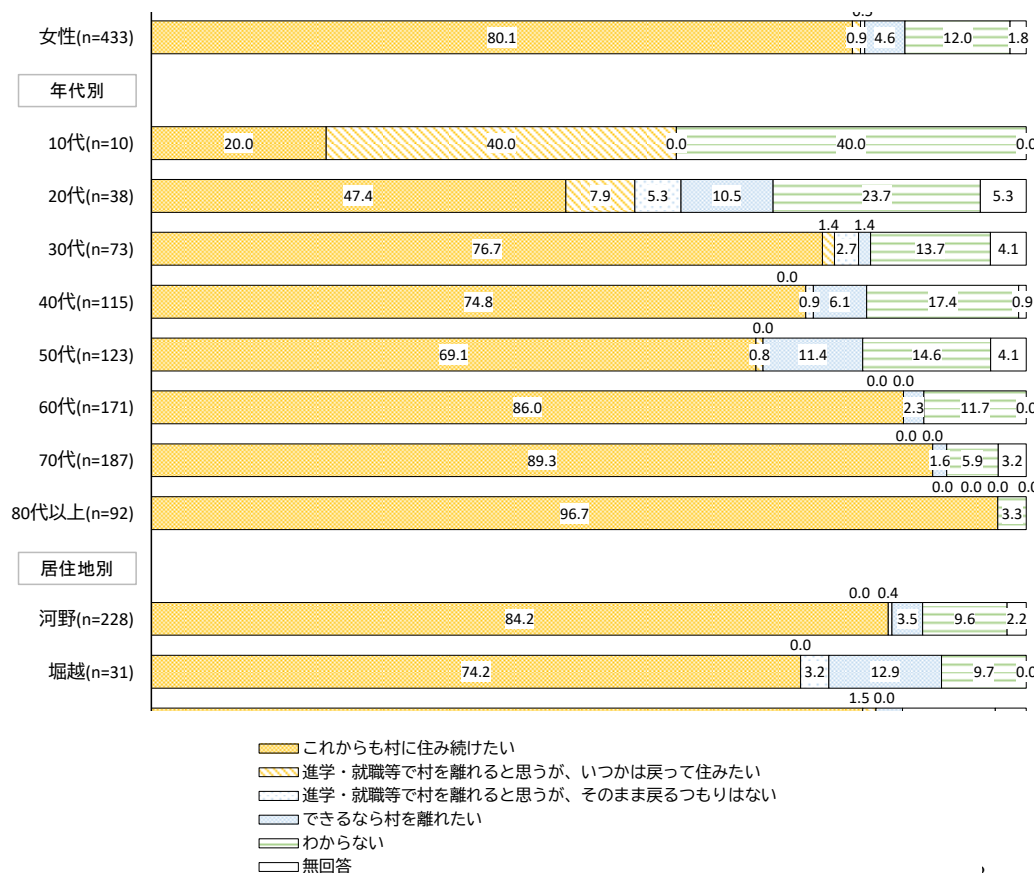


3 住民の意識等

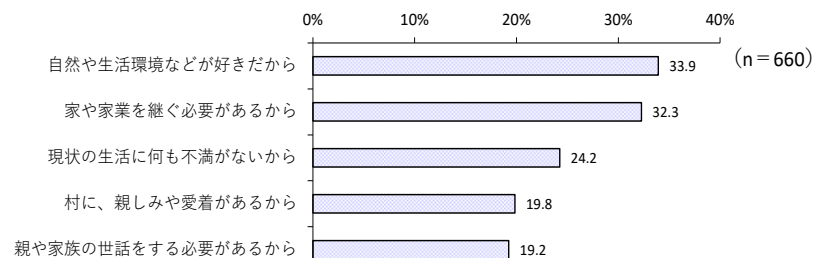
■定住意向

- 約8割の人が「これからも村に住み続けたい」と回答しています。年代が上がるにつれて「これからも住み続けたい」の割合が高くなっています。10代では4割が「わからない」と回答しています。
- 住み続けたい理由は、「自然や生活環境などが好きだから」「家や実家を継ぐ必要があるから」、村を離れたい理由は、「豊丘村では古いしきたりや近所づきあいが多く、わずらわしいから」「交通や買い物など、いろいろな面でもっと便利なところに住みたいから」の割合が高くなっています。

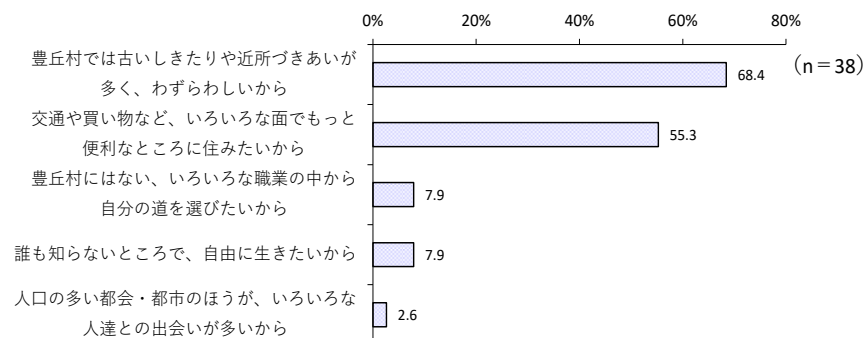
【これからも村に住み続けたいか】



【住み続けたい理由(上位5項目)】



【村を離れたい理由(上位5項目)】



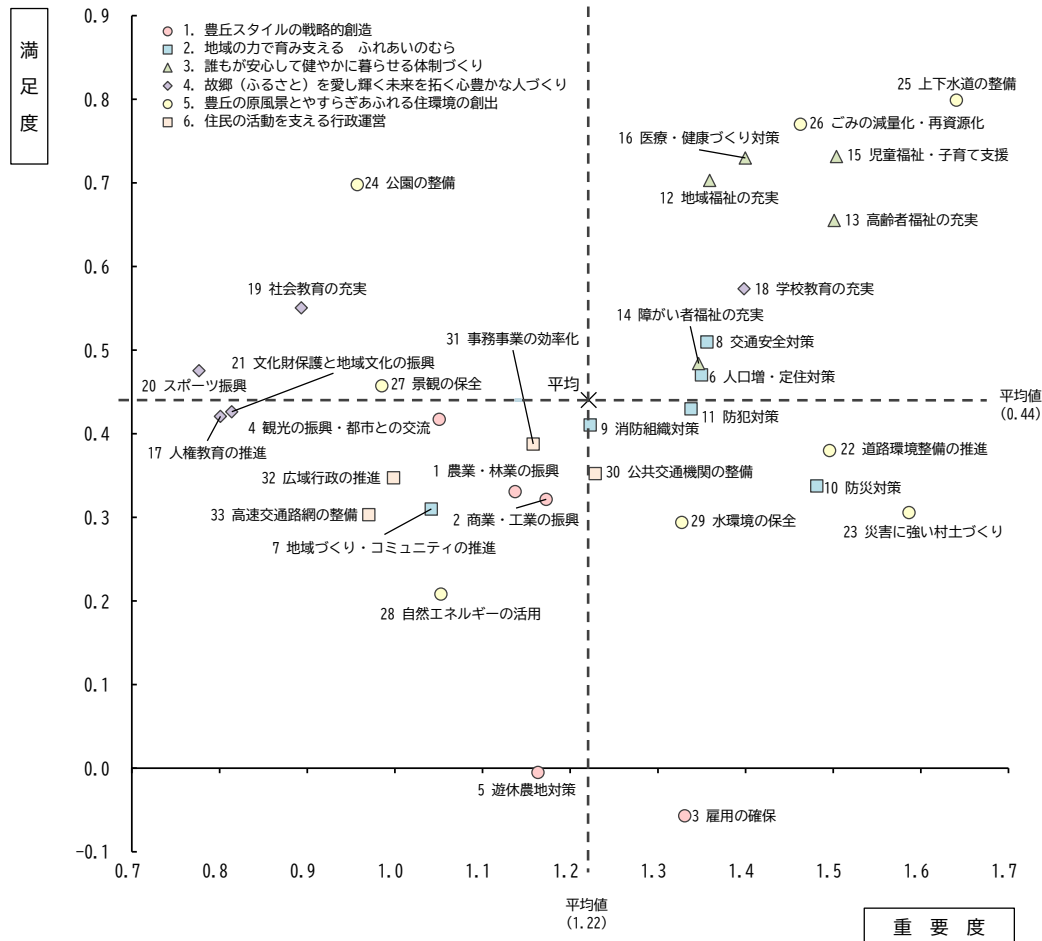
■村の取組の評価

- 満足度、重要度ともに高い施策は、「上下水道の整備」「ごみの減量化・再資源化」「児童福祉・子育て支援」等となっています。
- 満足度が低く、重要度が高い施策は、「雇用の確保」「災害に強い村土づくり」「防災対策」等となっています。

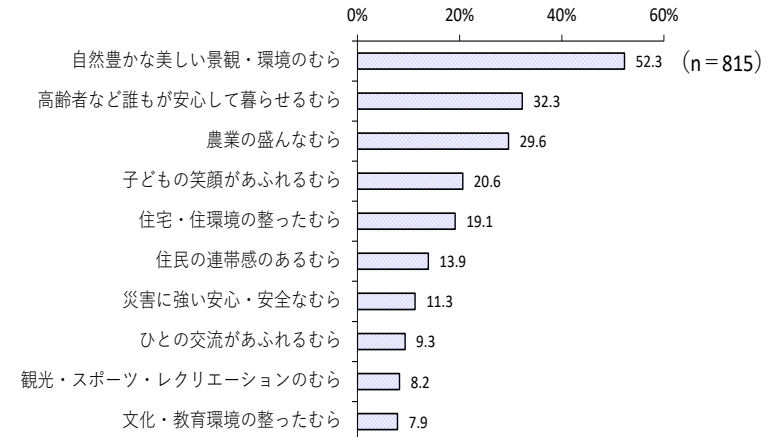
■村のイメージ

- 現在の豊丘村のイメージは、「自然豊かな美しい景観・環境のむら」「高齢者など誰もが安心して暮らせるむら」「農業の盛んなむら」等となっています。
- 将来の豊丘村のイメージは、「高齢者など誰もが安心して暮らせるむら」「災害に強い安心・安全なむら」「子どもの笑顔があふれるむら」等となっています。

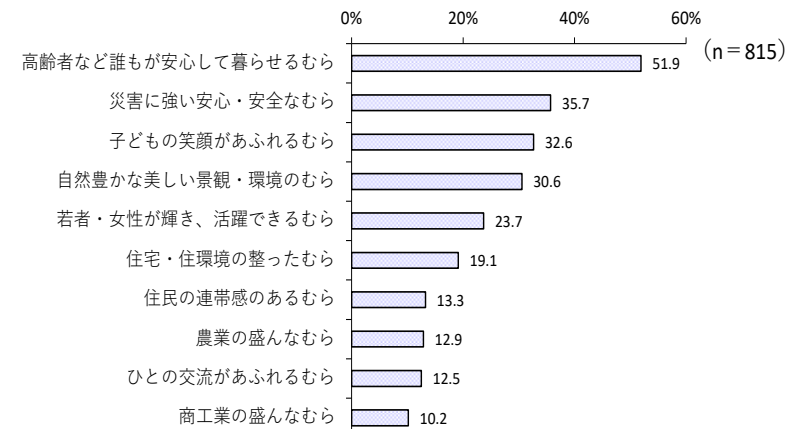
【施策の満足度・重要度】



【現在の豊丘村のイメージ(上位10項目)】



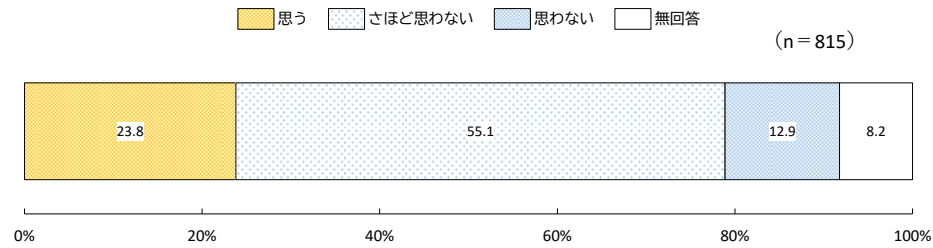
【将来の豊丘村のイメージ(上位10項目)】



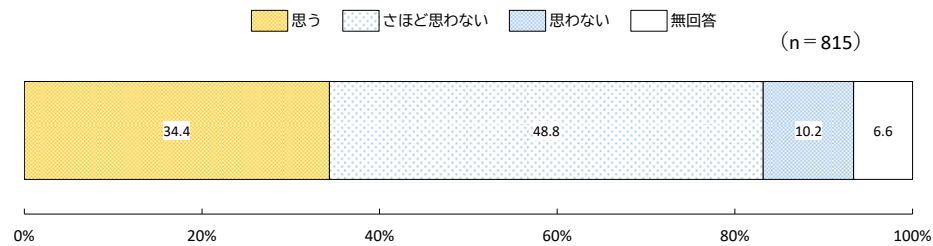
■リニア開業後の変化

- リニア開業後に村民の暮らしや飯田下伊那地域の経済が良くなると思うかどうかについて、「さほど思わない」が5割前後となっており、リニア開業の効果に期待をさほど寄せていない状況がうかがえます。

【リニア開業後に村民の暮らしが良くなると思うか】



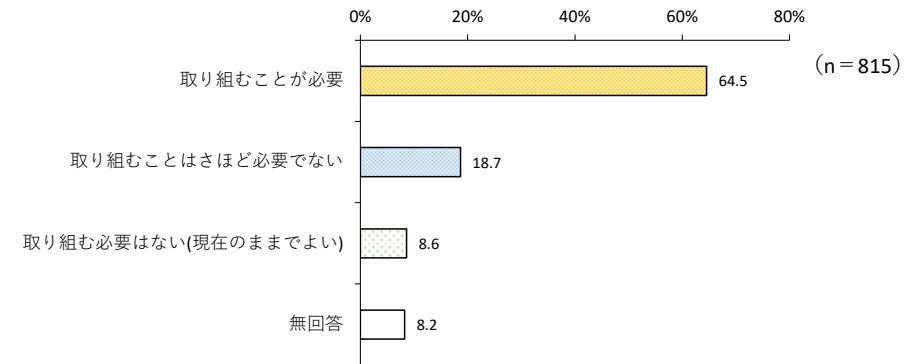
【リニア開業後に飯田下伊那地域の経済が良くなると思うか】



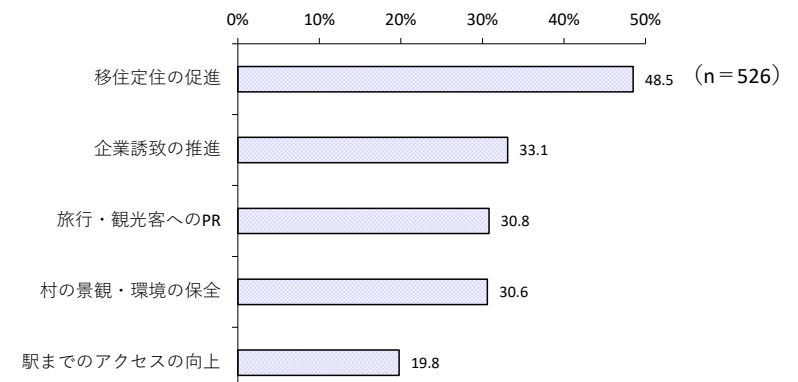
■リニア開業に備えた取組

- リニア開業に備えて新たな村づくりに取り組む必要性については、「取り組むことが必要」が6割強と高くなっています。
- 「取り組むことが必要」と回答した人に、特に必要な取組についてうかがったところ、「移住定住の促進」「企業誘致の推進」「旅行・観光客へのPR」等が上位にきています。

【リニア開業に備えた新たな村づくりの必要性】

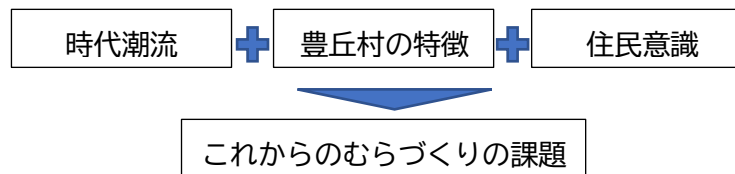


【リニア開業に備えて必要な取組(上位5項目)】



4 これからのむらづくりの課題

時代潮流や豊丘村の特徴、住民意識等を踏まえ、これからのむらづくりの課題を以下のとおり整理しました。



■リニア開業等を契機とした賑わい・活力の創出

より多くの人々が訪れ、働き、価値が生み出されるための素地を作っていくとともに、その利便性や本村が持つ魅力を活かした産業振興を図っていくことが重要です。

■若者の移住・定住、少子化対策の推進

若者にとって魅力的なむらづくりを進め、移住・定住を促進するとともに、希望する結婚・出産・子育ての実現を応援するための取組の充実が必要です。

■交流人口・関係人口の拡大

人口減少時代において村の活力を維持していくためにも、継続的に村を訪れたり、関わっていく交流人口、関係人口を拡大していくことが重要です。

■次代を担う子ども・若者の育成

子ども・若者が夢や希望を持ちながら健やかに育ち、村で暮らし、あるいは村と関わりを持ちながら、一人ひとりが持つ能力を発揮できるための取組が必要です。

■多様な学びや体験・交流活動の場の創出

価値観が多様化し、また、変化が激しい時代の中、興味や関心、社会動向等に応じた学びの場の充実を図るとともに、コロナ禍で滞っていた体験・交流の場の充実が必要です。

■誰もが活躍でき、安心して暮らせる地域社会づくり

性別や年齢、障がいの有無等に関わらず、誰もが活躍し、社会とつながりを持ちながら安全・安心が守られ、多様性が尊重される地域づくりが必要。

■山間地区の振興・コミュニティの維持

人口減少が急速に進む山間地区の振興を図りつつ、コミュニティを維持していくための取組が必要です。

■自然景観・農村風景の保全と活用

村の強みであり、村民の自慢である美しい自然を活かした景観や農村風景を守り、活用するむらづくりの推進が重要です。

■持続可能な行財政運営の推進

税収増や有利な補助事業等の活用による堅実な財政運営を図るとともに、多様な連携や人材の育成・活用、先端技術の活用による改革・改善が必要です。

豊丘村が目指す姿の実現

第2部 基本構想

1 むらづくりの基本姿勢

特性を活かす

豊かな自然や美しい風景、地域産業など、本村の強みや資源を活かすとともに、リニア開業を見据えて新たな魅力を創出するなど、特色あるむらづくりを進めます。

変化を捉える

変化が激しく、先の見通しが困難な時代にあって、ぶれない軸をもちつつ、社会環境や住民ニーズの変化を的確に捉えながら、柔軟に対応するむらづくりを進めます。

未来へつなぐ

地域の持続的な発展に向けて、次代を担う子どもを育むとともに、自然環境や伝統文化、コミュニティなどの地域資源を守り、未来につないでいくむらづくりを進めます。

2 むらの将来像

(キャッチフレーズ)

現在、村民の皆様を対象に防災行政アプリにて、本計画の「キャッチフレーズ」について、以下の候補の中から、1つ選んでいただくようなアンケートを実施しており、その結果を踏まえた上で策定委員会の中で最終決定する予定です。

- ① もっと ずっと ともに とよおか
- ② 共に創る 共に暮らす ~みんなが集い、輝き続けるむら~
- ③ みんなわくわく ともにとよおか
- ④ 近くて便利な美しいむら とよおか ~リニアで拓く 新・豊丘スタイル~

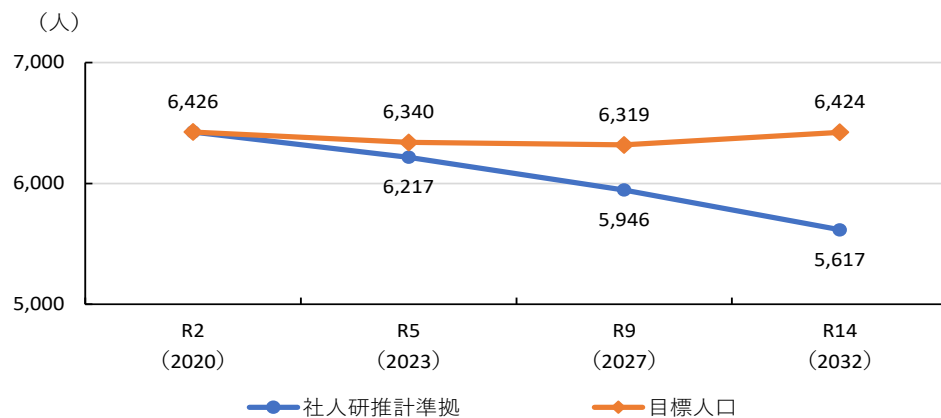
写真・イラストを挿入する予定です

■目標人口

令和2年国勢調査の結果をもとに、コーホート要因法により計画期間の人口推計を行った結果は以下のとおりです。

計画に掲げた人口減少・少子化対策をはじめ各種施策を推進することにより人口減少を抑制し、計画期間の目標人口を以下のとおりとします。

最終年度(令和14年度) **6,500人**



	合計特殊出生率	生残率	純移動率・転入超過
社人研推計準拠 (自然体)	直近の実績値 (1.57)が今後も 続くものと仮定	社人研 H30 推計の生残 率に合わせ た設定	社人研 H30 推計の移動率に合わせた設定
目標人口	2040年までに 人口置換水準 (2.07)まで上昇		上記に加え、移住・定住施策により以下のさらなる転入超過を想定 ・高校卒業後地元に残る：年5人 ・U・I・Jターン：年10人 ・若者夫婦（子なし）：年5組（10人） （子1人）：年5組（15人） （子2人）：年5組（20人） ・リタイア後の夫婦：年5組（10人）

3 施策の大綱

(1) 基本方向

「賑わい・活力」

将来にわたって持続可能なむらづくりを推進するためにも、豊丘らしさを活かしつつ、より多くの人々が暮らし、訪れ、関わる、賑わいと活力あふれるむらを目指します。

【基本目標】

- 1 豊丘らしさを生かした産業振興
- 2 若者の移住・定住促進
- 3 交流人口・関係人口の拡大

「人・つながり」

現在そして未来のむらづくりを担う人材を地域全体で育むとともに、様々な個性や多様な価値観を持つもの同士が交流し、お互いを認め合い、支え合うむらを目指します。

【基本目標】

- 4 未来を担う子ども・若者の育成
- 5 生涯を通じた学びと文化の創造・継承
- 6 誰もがいきいきと安心して暮らせる地域づくり

「安全・快適・環境」

誰もが安全に安心して暮らせるよう、全ての村民の生命と財産、権利や尊厳が守られるむら、そして豊かな自然と美しい景観を守りつつ、利便性の高い魅力的なむらを目指します。

【基本目標】

- 7 安全・安心を守る基盤整備と体制強化
- 8 快適かつ自然と共生した生活環境の整備

「村民参加・行財政」

中長期的な視野に立って将来を展望し、限られた地域資源を有効活用し、新たな技術や手法等を取り入れながら、多様な主体がむらづくりに参画し、連携・協働するむらを目指します。

【基本目標】

- 9 コミュニティの強化と協働・連携の推進
- 10 戦略的なむらづくりの推進

(2) 基本目標

1 豊丘らしさを生かした産業振興

リニア中央新幹線の開業を見据えた土地利用や基盤の整備、企業誘致に力を入れつつ、それらを強みとした新たな産業の創出を図ります。また、農産物の高付加価値化や商工業の活性化など、すでにある地域の魅力を活かした産業振興を推進するとともに、地域産業の安定的かつ持続的な経営基盤の強化を図ります。

[基本施策]

- 1-1 リニア開業を見据えた産業振興
- 1-2 賑わいの拠点づくり
- 1-3 農業振興の推進
- 1-4 商工業の活性化
- 1-5 森林資源の活用

2 若者の移住・定住促進

魅力ある居住環境や就労環境、活躍の場の創出、希望する結婚・出産を叶えるための支援の充実や地域ぐるみで子育て家庭を支える地域づくり等を推進することで、多くの若者の移住を促進します。また、村で育つ子どもたちの村に対する愛着を醸成し、村に定住し、あるいは一度離れても再び村に戻ってくるようなむらづくりを推進します。

[基本施策]

- 2-1 移住相談・情報発信の充実
- 2-2 魅力的な居住・生活環境の整備
- 2-3 就労環境の充実
- 2-4 結婚・出産・子育て支援の充実

3 交流人口・関係人口の拡大

着地型観光や二地域居住の推進、効果的なプロモーション等を通じて、何度でも訪れたくなる魅力あふれるむらづくりを進めるとともに、より多くの人たちが豊丘村に関心を持ち、継続的に関わり、応援してくれる「とよおかファン」になってもらえるような関係づくりを推進します。

[基本施策]

- 3-1 観光資源・コンテンツの充実
- 3-2 効果的なプロモーションの充実
- 3-3 多様なつながりの創出

4 未来を担う子ども・若者の育成

次代を担う子どもたち一人ひとりがその個性や能力を最大限伸ばし、未来に希望を持ちながら健やかに成長できる教育を推進します。また、若者の夢の実現を応援するとともに、様々な場で能力を発揮し、活躍できる地域づくりを推進します。

[基本施策]

- 4-1 学校教育の充実
- 4-2 多様な体験・交流の充実と居場所づくり
- 4-3 子どもの権利擁護と子育て支援の充実

5 生涯を通じた学びと文化の創造・継承

一人ひとりの興味関心や社会情勢の変化に応じ、生涯を通じて学習やスポーツ、文化芸術に親しむ機会の充実を図ります。また、先人から伝わる伝統文化や貴重な文化財を守り継ぐとともに、その価値を広く周知し、誇りの醸成とむらづくりへの活用を推進します。

[基本施策]

- 5-1 生涯学習・スポーツの機会の充実
- 5-2 生涯学習・スポーツ拠点の活用
- 5-3 指導者の確保・育成
- 5-4 文化財の保護・伝統文化の継承と活用

6 誰もがいきいきと安心して暮らせる地域づくり

村民の主体的な健康づくりを促すとともに、安心して医療にかかることができる体制の強化を図ります。また、誰もが地域の中で自分らしく安心して暮らしていくことができるよう、一人ひとりの個性や価値観を尊重するとともに、お互いを気にかけて、見守り、地域全体で支え合う地域づくりを推進します。

[基本施策]

- 6-1 健康づくりの推進
- 6-2 地域医療の充実
- 6-3 地域共生社会の実現
- 6-4 高齢者福祉の充実
- 6-5 障がい者福祉の充実
- 6-6 多様性を認め合う社会の実現

7 安全・安心を守る基盤整備と体制強化

災害発生時をはじめ、様々な危機が発生した際の迅速かつ適切な判断・行動がとれる体制づくりと被害を最小限に抑えるための基盤整備を推進します。また、地域ぐるみで地域の安全・安心を守るための体制の強化を図ります。

[基本施策]

- 7-1 防災・減災対策、国土強靱化の推進
- 7-2 消防・自主消防体制の強化
- 7-3 防犯・交通安全対策の充実

8 快適かつ自然と共生した生活環境の整備

村民にとって利便性が高く、快適に暮らしていけるよう、住環境や公共交通、上下水道等の基盤整備を計画的に推進するとともに、豊丘村の豊かな自然と美しい景観を守り、その恩恵を享受しながら、共に暮らしていくことができる環境づくりを村全体で推進します。

[基本施策]

- 8-1 公共交通の充実
- 8-2 上下水道事業の安定運営
- 8-3 資源循環型社会・地球温暖化防止対策の推進
- 8-4 里山風景の保全

9 コミュニティの強化と協働・連携の推進

各地区の主體的な活動を促進するため、コミュニティ組織をはじめ地域団体の活性化と活動を牽引する人材の育成を図ります。特に山間地におけるコミュニティ活動の維持に努めます。併せて、住民、地域、企業、行政等の多様な主体が連携・協力して活動するためのネットワークづくりを推進します。

[基本施策]

- 9-1 コミュニティの活動の活性化支援
- 9-2 連携ネットワークの構築
- 9-3 むらづくりへの住民参画の促進

10 戦略的なむらづくりの推進

中長期的な視野に立ち、将来像の実現にむけて、安定的な財源を確保しつつ、効果的かつ効率的な施策・事業を着実に推進できる体制の強化としくみの構築を図ります。また、村全体で目指す将来像や地域課題を共有しながら、村民をはじめ、多様な主体が積極的にむらづくりに参画する地域づくりを推進します。

[基本施策]

- 10-1 効果的・効率的な施策・事業の推進
- 10-2 安定的な財源の確保
- 10-3 職員の資質向上、体制の強化
- 10-4 広域行政の推進

(3) 共通する視点

基本目標およびそれらを実現するための施策を推進するにあたり、時代潮流や環境変化に対応し、すべての施策分野に共通する視点として、以下の3つの視点を設定します。

「リニア開業」

リニア中央新幹線開業を見据え、産業振興や基盤整備、村内外との多様な交流等につなげるとともに、豊かな自然や美しい景観と共生した環境を保全します。

「デジタル化・DX」

デジタル先端技術を活用することで、地域産業の活性化やコミュニティの再構築、安全・安心の確保、住民サービスの向上等につなげるための取組を推進します。

「持続可能性」

将来にわたって持続可能なむらを維持していくためにも、少子化対策の強化や産業の持続的な発展、人材育成、環境保全、健全な財政運営など、あらゆる分野での取組を推進します。

■全体像

